

うれしい春到来ーワクワク新入生

新入学シーズンを迎え、町内の幼小、中学校にピカピカの1年生の歓声が響きました。

4月7日、町内4小学校、東川中学校でそれぞれ入学式が行われまし



幼児センター入園式



東川小入学式



中学校入学式

ラソン大会、学習発表会もあります。給食もとてもおいしいです」と歓迎しました。

東川中学校（鍛冶川明校長）では、鍛冶川校長が「中学校生活は大人に

なるための準備期間です」と新入生を激励しました。

幼児センター（山下由紀夫園長）には65人の新しいお友達が増えまし

た。

零歳児から5歳児まで233人になり、昨年より18人増のにぎやかさです。特に零歳から2歳児の就園率が上がっているのが今年の特徴です。お母さん、お父さんと一緒に登園した子供たちは、さっそく新しいお友達と元気に遊びまわっていました。

今年の町内新入生は、小学生は昨年より4人多い74人、中学生は8人増の79人になりました。

20年度文化賞と陶芸家、石上さんと羽衣太鼓保存会

20年度東川町文化賞に山麓窯主宰の石上則明さん、郷土芸能の羽衣太鼓保存会（谷千代栄会長）が受賞し、3月26日、農村環境改善センターで受賞式を行いました。

石上さんは、1974（昭和49）年に設立された陶芸山麓会で1984（同59）年から会長を務め、以来31年間にわたって月例会などで活動

を続けてきました。現在会員は20人。町民総合文化祭、上川中央部8町芸術祭などで作品発表のほか、道の駅・道草館などでも会員作品を販売しています。

羽衣太鼓保存会は、1969（昭和44）年、「バチクラブ」という名前で発足。その後まもなく「羽衣太鼓」と改名し、郷土太鼓としての新

たな歴史を刻んできました。ラトヴィアを訪問して和太鼓を披露するなど国際交流にも貢献しています。

昨年11月、活動40周年を迎えて「羽衣太鼓保存会」と改名。小・中学生を中心とした活動部と指導部合わせて約150人の会員で地域のイベントなどで活躍しています。



石上さん(右)、羽衣太鼓保存会・谷会長

キーンと森公園 子供たちが春休みの思い出を

春休みに入ったキトウシ森林公園に子供たちの歓声が戻ってきました。

NPO（非営利活動団体）ねおす・大雪山自然学校は「大雪山はっちゃけ春キャンプ」を初めて開きました。旭川市内を中心に、小学校1年生から3年生まで17人が早春のキトウシの森に集まりました。



「大雪山はっちゃけ春キャンプ」で到着した子供たち



「わくわく探検隊」で到着した子供たち

今季営業が終了した園内のキャンモアスキー場ゲレンデを利用して残雪そり遊びを満喫、貸し別荘ケビンで寝袋を使って「初めてのお泊り」も体験しました。

近くの農家では雪の中からジャガ芋を掘り出す農作業の体験にも挑戦。都市の市街地では見かけることが少なくなった春の野鳥や、目の前をえさを探しに走り回るエゾリス

キーンと森公園 キャンプで春休みの思い出を

3月25日、札幌市内のホテルでウッドバンビがしかわ（菊池晋会長）のキッズコレクションを初めて紹介し好評を得ました。

（社）インテリア産業協会北海道支部（札幌）主催の「トータルインテリアキャンペーン2009 in 北海道」の会場でPRしました。



町内9社の30製品が勢ぞろいしました。ウサギや子豚、小象をデザインした子供用椅子、落書きテابل、絵本棚、子供用5段チェストなど、今年の新作がずらり。約1万個の小さなウツ

小学生絵画コンテストを開催。コンテストに出展した子供たちでにぎわいました。

の姿に驚きながら、2泊3日の「お泊り」キャンプに大満足。

3月27日、神奈川県小田原市内の小・中学生13人が初めて訪れました。同市内の幼稚園が企画した春休みツアー。卒園生の野外活動旅行として初めて来町しました。

川市内2泊、キトウシ森林公園ケビンに1泊して旭山動物園、美瑛町内など、旭川市内や近郊を「探検」。残雪のスキー場ゲレンデでタイヤチューブ遊びなど、早春の園内を満喫しました。

「わくわく探検隊」と名付け、旭